

## 第42回

## 第6章 現代の諸課題と倫理

## 平和を求めて

## 今回学ぶこと

20世紀を特徴づけた世界で初の二度の大戦はどのような特徴をもつものだったのでしょうか。そして、その後の冷戦とは何だったのでしょうか。戦後の体制において、日本はどのような平和と経済的な繁栄を享受してきたのでしょうか。近年のグローバル化による変化を視野に入れながら、平和と真の豊かさについて考えたいと思います。



講師

千田有紀

## ■ 戦争の20世紀 ■

20世紀には、これまでの歴史上で類を見ない二度の世界大戦がありました。両戦争とも多くの国を巻き込み、2つの陣営に分かれて戦い、さらに国民を巻き込んだ国を挙げて行われた総力戦でした。また技術革新を背景に、毒ガスや原子爆弾などの大量に人間を殺戮する兵器が作られたことも特徴です。

第二次世界大戦後は、資本主義陣営と社会主義陣営とに世界を二分する冷戦が起こり、東西ドイツや南北朝鮮などのように分割された国もありました。冷戦とはいえ、実際の戦争も起こっており、とりわけ長期化したベトナム戦争は、ベトナムにはもちろん、アメリカにも大きな爪痕を残しました。

これらの戦争の意味を考えていきましょう。

## ■ 経済的な豊かさと平和 ■

第二次世界大戦後、日本は復興を遂げていきます。とくに1950年に勃発した朝鮮戦争は、日本に特需をもたらし、経済成長につながりました。大戦後の日本が平和と豊かさを享受した一方で、そうした状況は戦争によって、もたらされてきたことを忘れてはならないでしょう。

また大量生産・大量消費のスタイルも、少子化などによる消費の減少などから、頭打ちになっています。とくに海外の向上における雇用のありかたや、商品の大量廃棄から引き起こされる環境問題になどの、問題も山積しています。

グローバル化のもとで進められる市場原理の導入は、社会に格差を急速に作り出しています。真の豊かさのありかたについて考えなくてはなりません。

### ■ ■ 真の平和を求めて ■ ■

冷戦が終わったあとで、次は「テロとの戦い」が起こっていると告げられています。その際に、資本主義諸国と対立する表象は社会主義からイスラームへと移行しました。それと伴って、セキュリティへの意識が高まり、監視・管理される社会への移行も起こっています。

リスクということを考えれば、戦争によって核兵器が使われた場合、地球自体が滅亡してしまう危機があります。またチェルノブイリや福島原子力発電所の事故が明らかにしたことは、放射性物質は国境を越えたリスクを皆に負わせるということでした。私たちはいわば、すでに運命共同体なのです。すべての生物と共存し、平和な社会を作り上げていくために、私たちが何をしなければならないのかを考えていかなくてはならないと思います。

